

横山千晶先生

最終講義

「存在の耐えられない
軽さの跡を遺す」



横山千晶教授のご専門は、ウィリアム・モリスやジョン・ラスキンを中心とする19世紀のイギリス文化です。研究と教育では、モリスやラスキンの思想を現代にどのように応用していくことができるのか、というアクチュアルな問いを、学生や同僚たちに問い合わせ続けてきました。

教養研究センターでは、所長としての様々なご尽力に加えて、「身体知」の授業を立ち上げ、同授業を20年に及び担当されてきました。

横山教授のご尽力に対して心より感謝申し上げますとともに、その感謝の気持ちの一つとして最終講義をオーガナイズさせていただきます。

発起人一同

プロフィール

1960年北九州市生まれ。

慶應義塾大学文学部卒業。1989年より慶應義塾大学法学部で働き始める。専門は19世紀のイギリス文化。ここ数年間、ウィリアム・モリスやジョン・ラスキンの活動を支え続けた名もなき徒弟たち、職人や実践家の足跡をリサーチしている。また2000年6月より横浜市中区の寿地区の近くで、居場所「カドベヤで過ごす火曜日」を運営。モリスやラスキンが目指した「人の暮らしの喜び」を可視化する小さな営みを続けて今年で15年目に入りました。



日時

2026年2月2日（月） 14：00～15：45

場所

日吉キャンパス来往舎1Fシンポジウムスペース

対象

学生、教職員、一般

定員

無し 申込み不要

横山先生のご意向により、花束の贈呈は固くお断り致します

発起人：佐藤元状 近藤康裕 永嶋友 星野真志（法学部）

慶應義塾大学教養研究センター主催 お問い合わせ：toiawase-lib@adst.keio.ac.jp